



今、追求しているのは「クレーンにやさしい」運転です。



乗務する天井クレーンは、一つひとつクセが異なる。



競技会で見事優勝! プレッシャーから開放されてニンマリ。



上司から見た中西さんの「現場力!」
ラインマネージャー 細川利博さん
「運転はピカイチ。
メンテでも期待しています」

メンテナンスの教育でも、普通は1年かけるところを3ヶ月で卒業。ポイントの絞り方がうまくったり、センスもあるんでしょうが、本人の努力も大きいでしょうね。これからメンテナンスもどんどん覚えていって、ゆくゆくはリーダーになってもらいたいです。



JFE物流を支えるのは
最前線で活躍する現場の皆さん。
彼らの「現場力!」を紹介します!

東日本事業所
千葉業務部
冷延起重機課

安全品質を守りつつ、機械もいたわる、 クレーンオペレーター 中西広明さん



昨年11月に行われた千葉地区の無線クレーン運転競技会で、2位以下に圧倒的大差をつけて優勝した人物が、冷延起重機課にいます。話を聞いてきました。今回紹介するのは、クレーンの運転のみならずメンテナンスもこなす、入社6年目の若きチャンピオンです。

——お仕事の内容を教えてください。

天井クレーンでコイルの運搬をしています。最近ではメンテナンスもやらせてもらえるようになり、

点検や故障対応などをやっています。運転とメンテナンスは通常それぞれ別の部署でやるものですが、両方やっているのがこの課の特徴です。

——メンテナンスではどういうことを?

月例点検では、モーターや車輪といった機械的な部分から制御盤内の電気部品まで、逐一異常がないかを見ています。あとは実際に故障が起きたときに、原因を探り、小さな部品であれば交換して修理します。だいたい見て原因がわかるのは機械系の故障。わかりにくいのは電気系の故障ですね。図面を開いて、アレでもないコレでも

ないと二つひとつ可能性を絞っていきます。電気は構造が複雑で難しいんですよ。

——メンテナンスはどうやって習得していくんですか?

最初はみんな運転からです。あの程度できるようになって、リーダーに認めてもらえると、一定期間メンテナンスの講習を受けるんです。じつは早くメンテナンスがやりたかったんで、声がかかる前に講習に出ていたんですけどね(笑)。とにかく覚えることがいっぱいあって大変です。運転は慣れてしまえば自分のものになりますが、故障はその時々で原因がまったく違います。これはもう経験を積みしかありません。

——では運転で気をつけていることは?

特にどこかというのではなく、製品を吊って運ぶ動作全てに集中しています。難しいのはつかむときですね。振れをしっかり止めて、やさ

を知ったことは、運転する上でも大きなプラスになりました。

——競技会にはどんな気持ちで臨んだのでしょうか?

出るからには優勝を目指しました。仕事の後に残って練習もしましたね。事前に行われた合同練習での出来が思いのほか良く、前評判が高くなってしまったんです。優勝候補なんて言われてミブ

——運転とメンテナンスとどちらが好きですか?

今はメンテナンスですね。段々と設備の仕組みがわかってくるのが面白いんです。学校の勉強は嫌いでしたが、ここでは覚えたいことがたくさんあります。

——今後の目標を教えてください。

メンテナンスの機会が増えているので、これからは積極的に知識を吸収していきたいと思っています。運転もまだ満足できていません。もともとクレーンにやさしい運転を極めたいですね。



メンテナンスをやるには、機械や電気への知識に加え、これらの道具の正しい使い方も知る必要がある。